

今年の稲作もいよいよ大詰め！ 品質向上の決め手は、こまめな水管理！

- ・穂揃い期(全茎の90%が出穂した日)の葉色が低いと、胴割粒が多発生する恐れがあります。⇒必要な穂肥えと飽水管理による地力窒素の発現を促す。
- ・フェーン現象時は、登熟不良・白穂等品質低下の要因となるため、一次的な深水に。

1 水稻生育状況 (7月20日現在) 草丈： 、茎数： 、葉数： 、葉色：

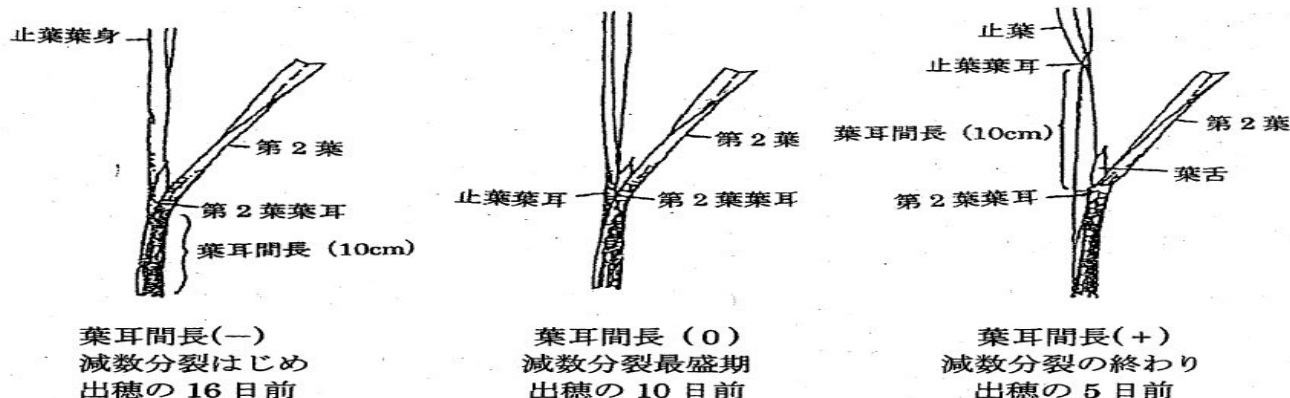
品 種	場 所	移植	草 丈(cm)			茎 数(本/m ²)			葉 数(葉)			葉 色 (SPAD)		
			本年値	前年比	平年比	本年値	前年比	平年比	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
コシヒカリ			各地域の生育状況については地域の情報でご確認ください。											
こいぶき														

2 コシヒカリの出穂期の予想と穂肥施用のめやす

穂肥2回目は、高温に負けず後半の登熟を良くするために重要な作業です。

ほ場間差が大きいので、穂肥の施用前には、必ず幼穂長^{ようじ}もしくは葉耳間長を確認しましょう

止葉の葉耳が第2葉よりも下か上かで出穂期が予測できます



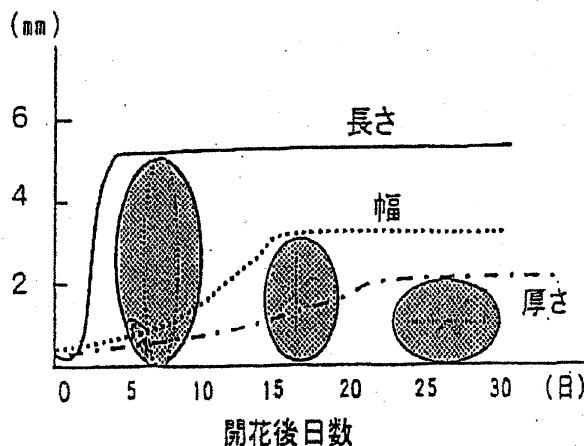
3 カメムシ対策 (草刈り) の徹底

○今年の斑点米カメムシ類は発生量が多めです。畦畔等の草刈りを徹底しましょう。

4 出穂期以降の玄米の発達

○玄米の発達^{はつち}は出穂開花後25日以降まで続きます。水不足・倒伏・高温等により品質低下を招きやすくなります。

玄米は、長さ、幅、厚さの順に成長し、最終的に厚さが決定するのは開花後25日以降です。だから、こまめな水管理で水分供給が必要です。



5 8月は栽培履歴カードの提出月です。記入漏れの無いように確実な記帳管理をお願いいたします。

詳しくは各JA営農センターへ